

Handsome

発行人 鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 松本 啓 編集責任者 柴谷 政司 印刷所 東京印刷(株)

平成8年度

鳥取県中小企業青年中央会経営研修会開催

11月11日(月)倉吉シティーホテルに於いて、平成8年度鳥取県中小企業青年中央会経営研修会が140名余りの参加で開催された。

開会宣言のあと森県会長の挨拶があり、先月行かれた山形での全国大会の話などがあり、引き続き本日の経営研修会の演題、アジアは燃えている—日本は何をすべきか—を国際技術コンサルタント・技術士前田哲男先生に講演していただいた。

まず最初に日本の現状について話され、今大変な就職難の時代であり、犯罪のない国と言われていた日本にも急増しつつあり特に若者は、就職がないお金がないなどが原因で、人間自身が追い込まれ犯罪に走る傾向がある。

40代の一流企業の一流大出身の社員がリストラの対象になり生き残れるのは1/100ぐらいときびしくなっている。60代にいたっては定年退職後の再就職率は1~2%と働きたくても就職先がないのが現状である。

原因としては製造業がどんどん海外に生産地を移した為に円高など問題があり不況の原因になっている。

アジアは今何がおこっているか

シンガポールでは企業誘致の為にプロモーションビデオを作り国外に工場の誘致をおこなっている。日本の会社も息詰まっていますシンガポールに本社を移転する会社が増えている。インドネシアバタム島40社の半数が日系企業があり、工業団地の売り物工場はシンガポールが用意をしている。企業誘致は国を上げて行っているため、細かいところの処理を全面的に行ってくれる。

その為第3次産業が東京からシンガポールに移っていて、製造業のGNPは上がっている。21世紀になっても半導体など付加価値の高い物がある為製造業は伸びていき、日本にはない製造業種をシンガポールは目指している。

インドはコンピューターのソフトウェア産業が発展していてアメリカの情報交換をしつつインドとアメリカは昼と夜が逆



転、アメリカが眠っている間に通信回線を使って世界No.1の出荷額になっている。

アメリカと衛星回線を利用して今までアメリカまで行かないと使用できなかった大型コンピューターがインドに居ながら使用できるようになり、インドの123社もの会社が使用しておりCD技術などの発展につながっている。しかし、インドでは電力の需要と供給のバランスが悪く、電話を設置するにもかなり待たないと

設置できない状態で、昼間の停電や交通や通信、電力など経済基盤も追いつかない状態である。

これから日本は何をすべきか

日本企業は安い賃金を求めて海外に進出はするが、現地の人を幹部に登用しない会社がほとんどで、国際的には考えられない状態を作ってしまった日本に空洞化がおこる状況を作ってしまった今、海外だけに目を向けず日本に地域密着型のミニFM型など文化活動などに力をいれたりバイオ技術の開発をすることも必要と持論も話され、これからは心の豊かなそして人の為に役立つ人を育てるのも日本には必要と話された。

講演終了後懇親会が行われ各地区の交流も有意義に行われ実りのある一日であった。

